

日本平にて友と語らふ

一二三册子

静岡県清水市に友を訪ふ。澄み渡りたる空の下、窓外の景色を楽しみつつ、日本平夢テラスに到れり。さは、建築家隈研吾氏の意匠による観光施設なり。富士の山を真向ひに、南アルプス、駿河湾、伊豆半島を一望す。二階の店にて茶を喫しつつ、しばし語らふ。

友は日本画家なり。高校にて美術を教へらる。常々、教え子たちに、呼吸を整ふるの肝要なるを説き聞かせらる。近頃の若人の呼吸浅きは、ゲームなどに関係すとの由。

さらに話はリニア中央新幹線へと及びぬ。南アルプスの地中深くまで穴穿ち、隧道建設せむといふ。岩盤の重なる場所なれば、大なる地震を誘発せしむる怖れあり。環境破壊、水質汚染に水枯渇、生態系への影響も憂慮せらる。眼前のかくも美しき山、海、空。そこに棲息する数多の生物。生きとし生けるものすべてと共に在らむ。これ日本人の古よりの思ひなるを、今はや忘れぬるか。やみくもに文明の恩恵を追ひ求めむとも、果していかほどの幸ひをもたらすべしや。暗き思ひにこそ沈みぬれ。

(令和四年三月二日受附)